

都城に住む人はもちろん、
そうじゃない人にもぜひ！

もっとうと

知れば
知るほど
面白い！



※写真は本物を忠実に再現したレプリカです。

知って欲しい！ 都城島津の歴史

むかしむかし、この土地から一つの歴史が生まれました。

都城島津の歴史をご紹介します。

歴史はここから始まりました。

「島津荘の成立」

大宰府の役人、平季基は、無主の荒野の日向国諸県郡島津の地を開発し、それを関白藤原頼通に寄進しました。これが島津荘の始まりで、中世最大の荘園が成立しました。

「一番古い記録としては、平安時代の史料から約1,000年も前、都城には「島津」という名の「一駅」が置かれてたことがわかってるそうよ。



都城が島津家発祥の地と言われる
フケはここにある！！

源頼朝が島津荘の地頭職に島津宗家の祖惟宗忠久を任命しました。その忠久が地名から姓を「島津」に改め、都城に入ったといわれています。後に、宗家は鹿児島を拠点とします。

「島津家」は誕生したってごねー！



都城島津家の祖は島津宗家の子孫！
その名も「北郷家」の誕生

島津	初代	忠久
	二代	忠時
	三代	久経
	四代	忠宗
北郷	初代	資忠
	二代	義久
	三代	久秀
	四代	知久
	五代	持久
	六代	敏久
	七代	数久

新たな時代への扉 庄内の乱 (都城の乱)

豊臣政権に屈した島津氏に命じられた最も大きなこととして領地の再編成(検地)と所領替えが行われました。その結果、北郷氏は祁答院(鹿児島県薩摩郡さつま町)へ所領を移され、その後、領主として、豊臣政権との結びつきが強かった伊集院忠棟が八万石で都之城に入りました。しかしその後島津宗家忠恒が伊集院忠棟を斬殺し、それをきっかけに合戦がおこります。これを「庄内の乱」といい、翌年島津家が勝利し、北郷家は都城の領主として返り咲き、以後幕末まで当地を治めることとなります。

敵中突破！関ヶ原の合戦への参戦

宗家の島津義弘(貴久の次男)を大将とした島津軍に北郷家の家臣も数百人が参戦し、有名な関ヶ原の「敵中突破」には、都城北郷兵も含まれていました。北郷久永は負傷しましたが、三年後に帰国。関ヶ原に参戦、帰国した人々には感状が送られました。

都之城 廃城

一國一城令により都之城が廃城となり、城の東方、現在の都城市役所付近に領主館として移転、それに伴い武家屋敷や町なども移転しました。この時形成された町が今の都城市の原型になっています。



都城島津の歴史をご紹介します。

一〇二六年

歴史はここから始まりました。

「島津荘の成立」

大宰府の役人、平季基は、無主の荒野の日向国諸県郡島津の地を開発し、それを関白藤原頼通に寄進しました。これが島津荘の始まりで、中世最大の荘園が成立しました。

おまけ
「一番古い記録としては、平安時代の史料から約1,000年前、都城には「島津」という名の「駅」が置かれてたことがわかってるそうよ。



一一八五年

都城が島津家発祥の地と言われる ワケはここにある！

源頼朝が島津荘の地頭職に島津宗家の祖惟宗忠久を任命しました。その忠久が地名から姓を「島津」に改め、都城に入ったといわれています。後に、宗家は鹿児島を拠点とします。

都城の荘園の名前をとって、「島津家」は誕生したってことね！



都城島津家の祖は島津宗家の子孫！

その名も「北郷家」の誕生

一二五二年

島津

初代 忠久

二代 忠時

三代 久経

四代 忠宗

北郷

初代 資忠

二代 義久

三代 久秀

四代 知久

五代 持久

六代 敏久

七代 数久

新たな時代への扉 庄内の乱 (都城の乱)

豊臣政権に屈した島津氏に命じられた最も大きなこととして領地の再編成(検地)と所領替えが行われました。その結果、北郷氏は祁答院(鹿児島県薩摩郡さつま町)へ所領を移され、その後、領主として、豊臣政権との結びつきが強かった伊集院忠棟が八万石で都之城に入りました。しかしその後島津宗家恒恒が伊集院忠棟を斬殺し、それをきっかけに合戦がおこります。これを「庄内の乱」といい、翌年島津家が勝利し、北郷家は都城の領主として返り咲き、以後幕末まで当地を治めることとなります。

敵中突破！関ヶ原の合戦への参戦

宗家の島津義弘(貴久の次男)を大将とした島津軍に北郷家の家臣も数百人が参戦し、有名な関ヶ原の「敵中突破」には、都城北郷兵も含まれていました。北郷久永は負傷しましたが、三年後に帰国。関ヶ原に参戦、帰国した人々には感状が送られました。

都之城廃城

お城よ さようなら！



一國一城令により都之城が廃城となり、城の東方、現在の都市役所付近に領主館として移転、それに伴い武家屋敷や町なども移転しました。この時形成された町が今の都城市の原型になっています。

その名も「北郷家」の誕生

島津宗家が去った後、都城盆地は「庄内」と呼ばれ、鎌倉幕府が滅びるまでは執権北条氏が治めます。そして南北朝時代になり、その後六五〇年にわたって都城と深い関わりをもつことになる家が誕生します。島津宗家の第四代忠宗の息子である資忠を始祖とする北郷家（後の都城島津家）です。

筑前金隈合戦での活躍を称えられた資忠には、その頃足利尊氏の領地となっていた庄内北郷の地三〇〇町が与えられました。北郷内薩摩迫（都城市山田町）に館を構えた資忠は、その後、地名にちなんで「北郷」と改名。これが北郷家の始まりです。

資忠です！私の代から、都城と深い関わりを持つ650年以上の長い歴史が始まります。



「都城」の地名はこのお城から… 「都之城」築城

現在の市名の由来にもなっている「都之城」は、二代目義久資忠の長男によって現在の都島町に築城されました。以後、一六一五年の一国一城令によって廃城になるまでの約三〇〇年もの間、この地の領主の居城となりました。

五三一年 都城盆地を統一した人物 北郷忠相

時を経て、周辺の北原氏・新納氏・伊東氏等に押され、戦国時代初期にはわずかに都之城と安永城（都城市庄内町）を支配するだけの北郷氏でしたが、八代忠相の代では、度重なる戦いにより所領を拡大し、ついに現在の都城市、三股町、曾於市を含む都城盆地をほぼ統一するに至りました。

鯨鱗南蛮胴具足（伝八代忠相所用）



した。「北郷家の中興の祖」ともいえる目覚ましい活躍でした。

五八七年 島津氏の九州制覇の夢

忠親の代では、北郷一門の所領は最大となり、時久は、忠相・忠親の築き上げた力を基盤に領内の整備を行い、宗家とともに九州統一に力を注いだほどで、この頃が北郷氏の全盛期といえます。

しかし、島津氏の勢力拡大を恐れた豊臣秀吉によって大軍で攻められ、北郷家は降伏。後の朝鮮出兵においては、北郷家も出陣を命じられ、一代忠虎は現地で病死しました。

七代	数久	たなが
八代	忠相	たなが
九代	忠親	たなが
十代	時久	ときひさ
十一代	忠虎	ただとら
十二代	忠能	ただよし
十三代	翁久	おむひさ
十四代	忠亮	ただすけ
十五代	久直	ひさなお
十六代	久定	ひさただ
島津		
(都城島津)		
十七代	忠長	ただなが
十八代	久理	ひさみち
十九代	久龍	ひさたつ
二十代	久茂	ひさもち
二十一代	久般	ひさたん
二十二代	久倫	ひさとも
二十三代	久統	ひさのり
二十四代	久本	ひさもと
二十五代	久静	ひさしずか
二十六代	久寛	ひさひろ
二十七日	久家	ひさいえ
男爵		
二十八代	久厚	ひさあつ
旧男爵		

市の原型になっています。

一六八八年 北郷から再び「島津」へ

江戸時代に入る頃には、北郷家は約四万石に及ぶ薩藩最大の私領の領主として確立しました。しかし大名に並ぶ程の石高を持つ分家であったため自立志向が強く、宗家との確執があったようです。

その頃、十二代忠能の後、翁久・忠亮と続くが相次いで早世、以後十五代久直・続く久定・忠長と宗家久光の子が養子となり、北郷家の当主となりました。忠長の代には宗家より「島津」を名乗るように命じられ、北郷家はこれ以後、都城島津と呼ばれるようになります。

新たな都城の時代到来なのね。



一七七八年 都城島津家の功績

久理の代より新田開発や、領内における茶生産の向上が図られました。また領内の教育や流通路の開発（観音瀬）など、現代にも繋がる大きな功績を残しています。

一八六八年 戊辰戦争に出兵

王政復古後に起こった戊辰戦争では、鳥羽伏見の戦いや、会津若松城攻めなどに私領一番隊が参戦しています。

一八六九年 版籍奉還後の動き

宗家にならぬ領地を返上した、都城島津氏は都城から鹿児島へと移る事になりました。しかし家臣や領民によって引止め運動が起こる程で、代わって都城に着任した地頭三島通庸は非常に苦心しました。

そして、都城島津氏は明治になり再び都城に戻ります。幕末維新の久寛の功績により二十七日久家は男爵の称号を得ます。



それだけ「島津」が都城に根付いていたことがわかるね。



島津よ、去らないでー！

一八七一年 たった一年の歴史「都城県」の誕生

廃藩置県後、現在の宮崎県南部から鹿児島県東部を県域とする都城県が置かれました。県庁は都城領主館跡（市役所）に置かれ、参事に桂久武が任命されましたが、明治六年（一八七三）には旧日向国をもって宮崎県を設置する布告が出され、僅か一年余でその歴史を終えました。

一八七七年 日本最後の内戦 西南戦争への参戦

日本最後の内戦と言われる西南戦争へは西郷軍として都城郷からは一五五六名が参戦しました。うち戦死者は約一三四名といわれています。

お茶も島津がもたらしたんですって。



問い合わせ先…

社団法人都城観光協会 (0986)23-2460

これむねただひき
惟宗忠久(島津忠久)が館を建てた場所!

祝吉御所跡

郡元町

現在の市内郡元町早水公園北側に二つ並んだ石碑のある公園があります。
ここは、文治元年(一一八五)、島津荘を管理する下司職、そして地頭職に任命された惟宗忠久(後の島津家初代忠久)が、庄内(都城盆地)に入り、館を構えたと伝えられる場所です。
現在は史跡として整備され、祝吉御所跡として「島津家発祥の地」の石碑が建てられています。



島津家発祥の地って書いてあるのね。

県指定史跡 祝吉御所跡

島津墓地

都城には島津家の墓地と言われる場所が数箇所あることをご存知でしょうか。その中でも三つのお墓を紹介しましょう。それは庄内町(豊幡神社と釣環院跡)と都島町(龍峯寺跡)にあります。豊幡神社境内山久院跡には、北郷家初代資忠夫妻の墓、釣環院跡には草創期の二代初期の墓、龍峯寺跡には戦国時代から幕末期にかけての島津家歴代のお墓が存在します。この他にも市内鷹尾の二蔵寺跡(十二代忠能の墓)、三股町梶山(三代久秀の墓)や鹿児島にもあります。



初代:資忠夫妻の墓
とよはた 豊幡神社:山久院跡(庄内町)



二代・初期の墓
ちゅうかんいん 釣環院跡(庄内町)



歴代島津氏と家臣の墓
りゅうほうじ 龍峯寺跡(都島町)
龍峯寺は、北郷忠相(都城島津氏8代)創建。1867年(慶応3)に廃寺となり、現在は島津氏歴代とその家臣の墓のみが残る。

説明しよう!

そもそも「都城島津家」は、北郷忠長の時に、島津宗家から命じられたことから島津姓を名乗るようになった。だから北郷家は都城島津家のご先祖様にあたるワケなのです。

詳しくは、年表でもご紹介しています。

島津家ゆかりの神社・お寺

神柱宮と黒尾神社

前田町/梅北町

都城で一番大きく、高さ二十五メートルの大鳥居が目印の神社と言えば前田町の神柱宮ですが、この神柱宮も島津家に大変ゆかりのある神社です。もともと市内梅北町に鎮座していた神柱宮は、島津荘開拓のため大宰府からやってきた平季基が、万寿三年(一一〇二六)、天照大神の神託を受けて伊勢神宮より勧請したのに始まると伝えられます。御祭神は天照大神と豊受大神。島津荘総鎮守として崇敬されてきました。

現在の場所に移されたのは明治六年(一八七三)のことです。その旧鎮座地に遷座したのが黒尾神社です。

初代島津忠久建立の神社 稲荷神社

郡元町

郡元町に鎮座する稲荷神社は、島津初代忠久によって建てられた神社で、古くは島津稲荷神社とも呼ばれていました。かつて島津荘が置かれ、祝吉御所があった場所にとても近いところにあり、島津家に大変縁のある神社です。



稲荷神社(郡元町)

島津家菩提寺 福昌寺の末寺だった 石山観音寺

高城町

古来、安産の観音様として崇められてきた石山観音は、もともと天台宗の石山寺という小さなお寺でした。その後、曹洞宗の日州龜石山福聚寺へと改め、時を経て安永四年(一七七五)に、もとの石山寺に復号しました。

そして、慶応三年に廃寺になるまで、島津家菩提寺福昌寺の末寺という、島津家と深い繋がりのあるお寺でした。明治十三年に再興され現在に至ります。



石山観音寺門(高城町)

石の門には島津の家紋が入ってるわ!

島津宗家と縁のある 東霧島神社

高崎町

高崎町にある東霧島神社は、江戸時代に東霧島大権現宮と号するようになりました。歴代藩主の崇敬が特に厚く、祈願奉養や奇進、造宮が度々行なわれています。

また、庄内の乱では、島津軍の本陣とされたことも知られています。慶長二十年(一六一五)五月の「大坂夏の陣」に島津家久が出陣する際、諸願成就のために東霧島大権現宮に祈願奉納したとされる梵鐘は、貴重な美術工芸品として宮崎県指定文化財となっています。



東霧島神社(高崎町)

ちよつと意外なホントのお話

都城で密輸工場!?

寒天工場跡



山之口町・高城町
幕末の頃、山之口町永野と高城町石山片前有水には、薩摩藩によって作られた工場がありました。しかもそれはただの工場ではありません。密輸のために作られた秘密の寒天工場だったのです。

その頃、薩摩藩の財政は非常に困窮していました。そこで、家老であった調所笑左衛門広郷は、指宿の有力な商人、浜崎太平次とともに、財政再建のため、この地に寒天工場を造りました。製品は馬で福山港に運び、大阪・長崎を経由して中国・ロシア等に密輸したそうです。山之口町には、現在でも九基の窯跡が残っています。

なぜ工場立地に都城が選ばれたの?

寒天づくりは一般的に寒い地域で行われていて、都城の冬の厳しい寒さは、寒天づくりに適していたみたい。何より、南国でありながら寒天づくりというギャップが、幕府の目から逃れるのに好都合と言えたとか。なんといっても密輸工場ですもの。(幕府などにバレたら大変なこと)と、あと、寒天づくりに欠かせないきれいな水があったというのも、選定理由にあげられたそうよ。

都城島津家第二十八代当主 新都城市初の名誉市民

島津久厚さま

現在の都城島津家当主は第二十八代目の島津久厚さまです。市内で会社経営に携わり、また、総理府林政審議会委員、宮崎県公安委員長、都城市国土利用審議会会長など、数々の要職を歴任されてこられました。

さらに平成五年からは、学校法人学習院の院長を九年間務められるなど、日本や郷土の発展に重要な役割を果たしてこられました。紺綬褒章、藍綬褒章も受賞されています。

平成十六年には、都城島津家当主として保管されていた約一万点にも及ぶ貴重な史料を市に寄贈されました。これらの史料は都城地域をはじめ、南九州の中・近世の歴史を解明する貴重な歴史遺産として全国的に注目されています。久厚さまには後継者として、久友さま、お孫さんの久盛さまもいらつしやいます。都城島津家の歴史はこれからも末永く続きます。



- 主な経歴**
- 一九四二年 陸軍技術将校
 - 一九四七年 九十産業設立
 - 一九四八年 島津山林設立
 - 一九六九年 島津茶園設立
 - 一九九三年 第二十三代学習院院長(二〇〇二年まで)
 - 二〇〇一年 ロータリークラブ米山支部副会長(二〇〇七年まで)
- その他、宮崎交通、宮崎放送の取締役、高橋県議会議員、宮崎県公安委員長、公安委員長、日本林業経営者協会会長、日本赤十字社理事も歴任されました。

市内に唯一残る 都城島津家の建造物

島津邸



国の文化財として登録された大変貴重な建造物です。早鈴町
明治二年の版籍奉還によって都城を離れた都城島津家二十六代久寛でしたが、旧家臣たちの強い求めに応じて明治十二年に都城に帰郷しました。以前の屋敷地は小学校(現在の明道小)の敷地として提供していたので、新しく居を構えたのが現在の都城島津邸です。敷地面積は約1.5ヘクタール、剣道場やプール、テニスコート、石蔵など名家の生活を思わせる施設も多数残っています。昭和四十八年の植樹祭の時には天皇皇后両陛下もお泊まりになられ、記念の品も飾られています。

●天皇皇后両陛下宿泊記念

鹿児島おはら節 発祥の由来:?

都城の風物詩の盆地まつりでは欠くことのできない「安久節」ですが、この唄も実は島津家由来のものです。

一六〇九年、島津家久の命を受け、忠能の軍代北郷久武は、都城領から一二〇人も安久武士を従えて琉球出兵に参戦しました。「安久節」は、その時士気を奮い立たせるために唄い出された「陣中歌」であったと言われています。

そして、同じく琉球出兵の際、その唄を聞いた鹿児島島の原良(はらら)の武士が、帰国後その節に歌詞を作ったと歌い始めました。その唄が鹿児島島の各地に広がるにつれ、原良にお(小)がつき、「小原良(オハラ)節」と呼ばれるようになったという説もあります。



盆地まつり。
毎年8月に行われる、都城有数の祭りの一つ

島津を現代に伝える

都城島津の歴史を今に伝える書籍も発行されています。人物や、歴史的出来事を切り口に、都城島津についてのさまざまな事柄が描かれています。

写真/三州風流 都城の乱 北郷忠相 姫美容 著者/田代義博



●書籍に関するお問い合わせ… 社団法人都城観光協会まで

もっと知って欲しい! 都城島津の歴史

発行者:社団法人都城観光協会 都城市牟田町27街区10号 (0986)23-2460 協力:都城市文化財課

都城島津

観光マップ

史跡めぐり

都城島津ゆかりの場所を
めぐってみましょう。



都城島津家
発祥の地
薩摩迫

関之尾の滝



母智丘公園



F
G

安永城跡

豊幡神社

庄内町

横市町

横市川

山田城跡

山田町

山田

中霧島

菓子野町

庄内川

乙房町

都城市

野々美谷城跡

野々美谷町

大淀川

ひゆうが
しょうない

みや

稻荷神社

志和池城跡

丸谷町

上水

高木

太郎坊町

金田町

吉尾町

都北

高崎町

高崎町



木之川内川

丸谷川

M

びんづみ石地

まんがつか

たしがしら

吉都線

42

42

45

46

46

45

42

31

31

221



南北朝時代、南朝方の武將肝付兼重が築城した月山日和城址に平成二年九月に着工され、平成四年三月に開館した。歴史資料や民俗資料が展示されており、寒天製造所の釜と窯の模型なども見る事ができる。



○ 高城郷土資料館
 高城(月山日和城)跡地
 がっさんひわじょう



N 日州寺柱番所(関所)跡
 にっしゅうてらばしらばんしょ(せきしよ)あと
 薩摩藩に九つあった関所の一つと伝えられる。番所の先は険しい山道で、尾根伝いに野坂一里塚(二十六里塚)、中之峠、牛之峠を越え、肥前に入る道だった。寺柱は宮村と呼ばれる以前の地名。





奇町

高崎町縄瀬



上水流町

也城跡

221

高木町

都北町

社

L

至宮崎

10

有水川

星原

永野

K

石山

観音寺入口

観音池公園

高城町

旧後藤家商家交流資料館

穂満坊

高城

(月山日和城)跡

O

高城町

大井手

47

桜木

都城IC

269

薔池

もちは

長田

碓氷城跡

弥五郎どんの館



松尾城跡 (あじさい公園)

山之口町



J

山之口城跡

山之口

至宮崎



A 都城歴史資料館
兼喜神社

至10号線
西都城駅

宮丸団地
兼喜神社
竹ノ下橋
都城歴史資料館
都島町
大湊川

資料館では、都城島津家に伝わる古文書や美術工芸品なども展示。島津の歴史を実際に目にする事ができる。

C 島津邸

二〇〇八年三月現在では、敷地内に入ることできませんが、外から見てもその広さが伺えます。

至宮崎
都城市役所
早鈴町
早鈴リサイクルステーション
島津邸
早鈴病院
至鹿児島

D 祝吉御所跡

至宮崎

郡元町
祝吉御所跡
万葉植物園
体育文化センター
早水公園
年見町
年見川
立野町

E 有村次左衛門寓居の地

至庄内
入口
母智丘
有村次左衛門寓居の地

志比田から母智丘へ向かうり口に立て札があります。



◎都城市街地(市役所)へのアクセス◎

- 自動車利用の場合
 - ・宮崎自動車道 都城ICから国道10号経由で約15分(約9km)
- JR利用の場合
 - ・日豊本線西都城駅から約800m
- 飛行機利用の場合
 - ・宮崎空港から空港連絡バス(都城行)で約1時間、西広ロバス停下車約300m
 - ・鹿児島空港から高速バス(宮崎行)で77分、都城北バス停下車、路線バス(西都城バスセンター行等)に乗換え18分、西広ロバス停下車約300m



の変の
次左衛門
の地
へ向かう道の途中の民家入
ります。



G F
山久院跡 (豊幡神社)
釣璜院跡
ちようこういん



H
島津墓地
龍峯寺跡



L
観音瀬
都城島津久倫は、船が通行できるよう開削する計画を立てた。寛政六年(一七九四)すべての工事が完了。

K
石山観音寺

J I
寒天工場跡
山之口麓文弥節人形浄瑠璃館
やまのくちふもとんやぶしにんぎょうじょうりかん

都城茶の振興につとめた
都城島津家の医師、池田貞記の墓